

2017年11月
No.17-149a(山)※5

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして検査内容を変更させていただきますので、取り急ぎ
ご案内する次第です。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■検査内容変更項目

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| ●[2243] エストラジオール(E_2) | ●[-]IVF-エストラジオール(E_2) |
| ●[2410] DUPAN-2 | ●[2470] シアリル Le^X 抗原(CSLEX) |
| ●[-] ループスアンチコアグラント[APTT 凝固時間法] | |
| ●[6857] ループスアンチコアグラント[リン脂質中和法] | |
| ●[4127] ループスアンチコアグラント[希釈ラッセル蛇毒時間法] | |
| ●[3508] 免疫電気泳動[特異抗血清による同定] | |
| ●[3509] 尿中免疫電気泳動[尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定] | |
| ●[1560] リゾチーム<血清> | ●[1561] リゾチーム<部分尿> |
| ●[1164] トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT) | |
| ●[2024] ゾニサミド | ●[1961] 蛋白分画<部分尿> |

※変更内容の詳細は次頁以降をご確認下さい。

■変更期日

- 2017年11月30日(木)受付日分より

以上

■対象項目/変更内容

頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧
54	2243	エストラジオール(E_2)	検査方法	ECLIA	CLIA
			基準値	本案内の4頁をご参照下さい	
			報告範囲	5.0未満、5.0～99990000	10未満、10～99900000
54	-	IVF-エストラジオール(E_2)	検査方法	ECLIA	CLIA
			報告範囲	5.0未満、5.0～99990000	10未満、10～99900000
59	2410	DUPAN-2	検体量	血清 0.4mL	血清 0.2mL
60	2470	シアリル Le^X 抗原(CSLEX)	所要日数	3～8日	3～7日
94 139	-	ループスアンチコアグラント[APTT凝固時間法]	備考	<p>採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。</p> <p>※遠心器回転数の計算式 $G=1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)</p>	3.2%クエン酸容器で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに冷却遠心器を用い1700G以上15分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を1mL採取し、凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。
94 139	6857	ループスアンチコアグラント[リン脂質中和法]			※遠心器回転数の計算式 $G=1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)
94 139	4127	ループスアンチコアグラント[希釈ラッセル蛇毒時間法]			※遠心器回転数の計算式 $G=1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)
100	3508	免疫電気泳動[特異抗血清による同定]	検査方法	免疫固定法	免疫電気泳動法
100	3509	尿中免疫電気泳動[尿中ベンスジョンス蛋白の同定]	検査方法	免疫固定法	免疫電気泳動法
			備考	特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。 使用する抗血清は IgG、IgA、IgM、 κ 、 λ の5つになります	特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。
110	1560	リゾチーム<血清>	検体量	血清 0.4mL	血清 0.5mL
			報告範囲	0.1未満、0.1～999999.9	0.0～999999.9

頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧
110	1561	リゾチーム (部分尿)	検 体 量	部分尿 0.4mL	部分尿 0.5mL
			基 準 値	0.1 未満 (μ g/mL)	0.0 (μ g/mL)
			報 告 範 囲	0.1 未満、0.1~999999.9	0.0~999999.9
138	1164	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	検 査 方 法	CLEIA	EIA
			報 告 範 囲	1.0 未満、1.0~119.0、120.0 以上	1.0 以下、1.1~59.9、60.0 以上
143	2024	ゾニサミド	検 査 方 法	ラテックス凝集法	HPLC
			材 料 ・ 検 体 量	血清 0.5 mL (血漿の削除)	血清 0.2 mL または 血漿 0.2mL
			報 告 範 囲	1.0 未満、1.0~999999.9	0.5 以下、0.6~999000.0
			所 要 日 数	3~6 日	4~7 日
-	1961	蛋白分画 (部分尿)	検 査 項 目 名	尿中蛋白分画	蛋白分画(部分尿)
			検 査 方 法	アガロースゲル 電気泳動法	キャピラリー電気泳動法

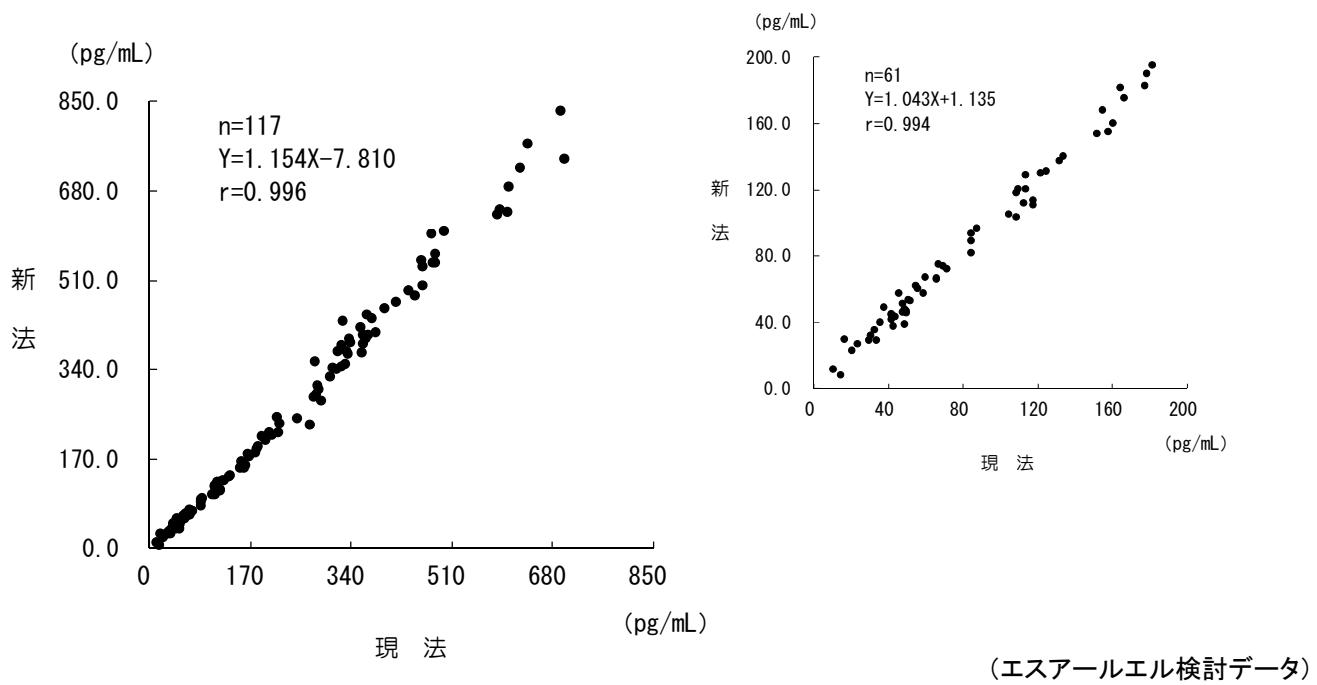
※その他の検査要項に変更はございません。

エストラジオール(E₂) 、IVF-エストラジオール(E₂)

感度が高い試薬、検査方法へ変更いたします。

併せて、エストラジオール(E2)の基準値を再設定させていただきます。(IVF-エストラジオール(E2)は基準値を設定しておりませんので変更ありません。)

■新旧二法の相関



■[2243]エストラジオール(E2) 基準値 (単位:pg/mL)

変更後

非 妊 婦	女性	卵胞期	28.8～196.8
		排卵期	36.4～525.9
		黄体期	44.1～491.9
		閉経後	47.0 以下
男性			14.6～48.8
妊 婦	妊娠初期		208.5～4289
	妊娠中期		2808～28700
	妊娠後期		9875～31800

←

変更前

非妊婦	女性	卵胞期	22～147
		排卵期	57～509
		黄体中期	56～321
		月経期	7～153
		閉経後	6～37
男性			10～40
妊婦	妊娠初期		1130～29200
	妊娠中期		1110～39700
	妊娠後期		1760～41600

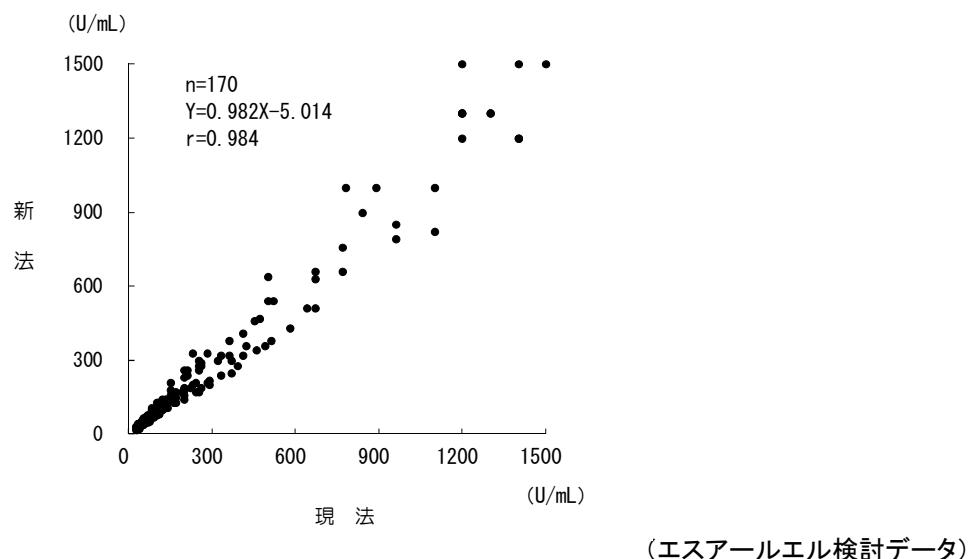
■検査方法および基準値参考文献

松崎 利也, 他:医学と薬学 72(5):931～941, 2015.

DUPAN-2

同一メーカーの改良新試薬へ変更いたします。(現試薬は販売中止となります。)これに伴い、検体量を変更いたします。

■新旧二法の相関



ループスアンチコアグラント

検体取扱い方法におきまして、日本検査血液学会標準化委員会 凝固検査標準化ワーキンググループの「凝固検体取扱いに関するコンセンサス」に基づいた内容に変更いたします。

■検体取扱い方法

採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。

※遠心器回転数の計算式 $G=1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$

r :遠心器のローター半径 (cm)

n :1分間あたりの回転数 (rpm)

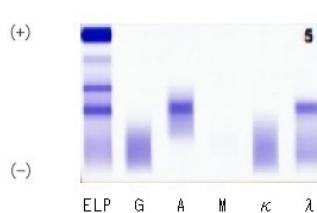
免疫電気泳動[特異抗血清による同定] 尿中免疫電気泳動[尿中ベンスジョーンス蛋白の同定]

本検査におきまして、微量なM蛋白や複数のM蛋白の検出に有用な免疫固定法に変更させていただきます。

■別紙報告書の見本

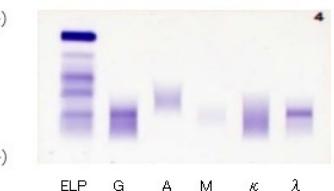
●免疫電気泳動

[特異抗血清による同定]

 免疫電気泳動検査報告書 Communication for Health		0*1* * 0*1* 1*1-1*1*0-0*-9*9*9
氏名 SRL 外院 病院名 SRL ビヨウイン 性別 F 年令 才 加藤 1*4*0*6 提出医 1007*加* 先生 採取日 5月 12日 材料 ケモイズイイキ 受付日 29年 6月 3日 受付No 3*3*8* 科名 (外来・入院) 報告日 29年 6月 6日 報告No *N*W0*1* 病棟 6F 検査No *N*W0*1* その他		
検査項目 特異抗血清による同定		
1. Pattern		
		
ELP 蛋白分画 G:抗IgG抗体 A:抗IgA抗体 M:抗IgM抗体 K:抗IgK抗体 L:抗IgL抗体		
2. Result <ul style="list-style-type: none"> • IgA- λ型M蛋白が認められました。 		
<small>医療機関専用問い合わせ先(データインフォメーション) (042)646-5911 検査責任者 西島 裕和</small>		
<small>株式会社エスアルエル & ハ王子ラボ 東京都八王子市小吉町51番地</small>		

●尿中免疫電気泳動

[尿中ベンスジョーンス蛋白の同定]

 検査報告書 Communication for Health		0*1* * 0*1* 1*1-1*1*0-0*-9*9*9
氏名 SRL 外院 病院名 SRL ビヨウイン 性別 F 年令 才 加藤 1*4*0*6 提出医 1007*加* 先生 採取日 5月 12日 材料 ケモイズイイキ 受付日 29年 6月 3日 受付No 3*3*8* 科名 (外来・入院) 報告日 29年 6月 6日 報告No *N*W0*1* 病棟 6F 検査No *N*W0*1* その他		
検査項目 尿中ベンスジョーンス蛋白の同定		
1. Pattern		
		
ELP 蛋白分画 G:抗IgG抗体 A:抗IgA抗体 M:抗IgM抗体 K:抗IgK抗体 L:抗IgL抗体		
2. Result <ul style="list-style-type: none"> • Bence Jonose Protein-λ型M蛋白が認められました。 		
<small>医療機関専用問い合わせ先(データインフォメーション) (042)646-5911 検査責任者 西島 裕和</small>		
<small>株式会社エスアルエル & ハ王子ラボ 東京都八王子市小吉町51番地</small>		

リゾチーム

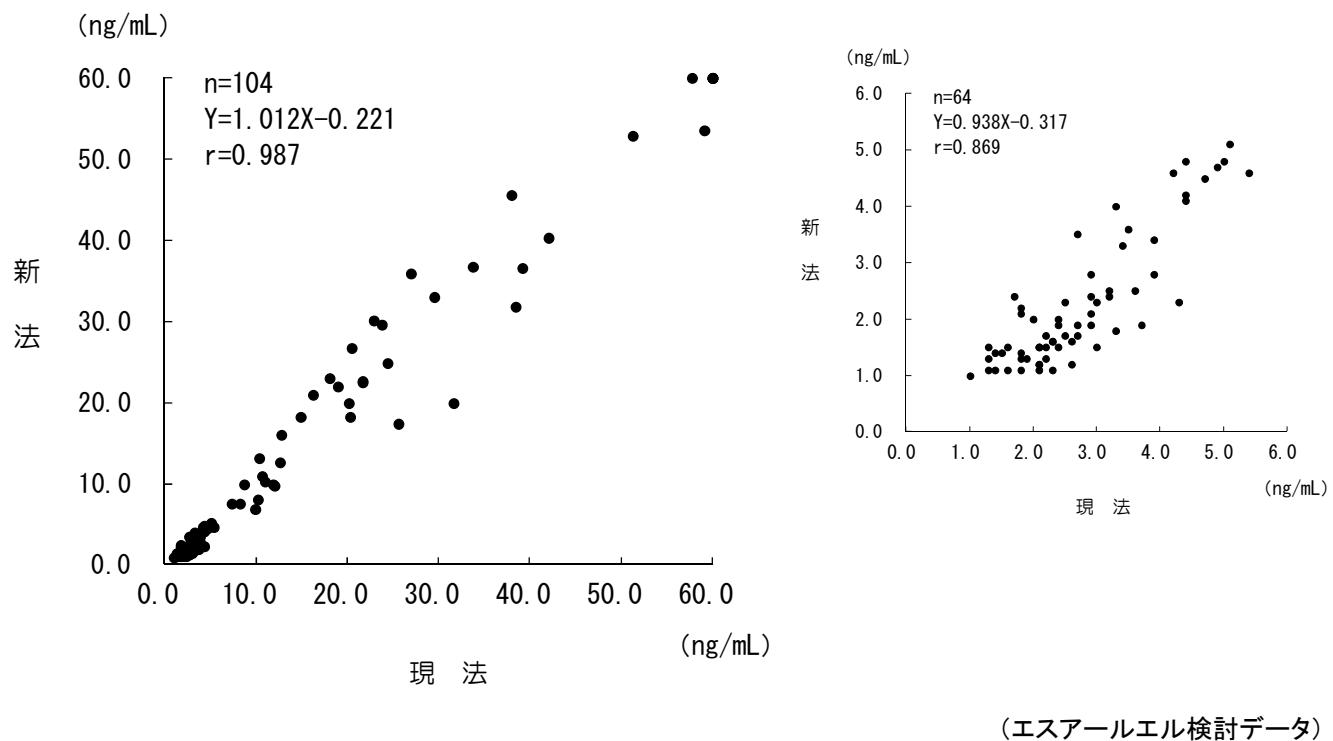
報告下限を見直し、基準値(部分尿)とともに再設定させていただきます。また、検体量を見直し、適正な量に再設定させていただきます。

尚、血清の基準値は従来通りで変更ありません。

トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)

高値域の測定範囲が広い試薬に変更いたします。

■新旧二法の相関



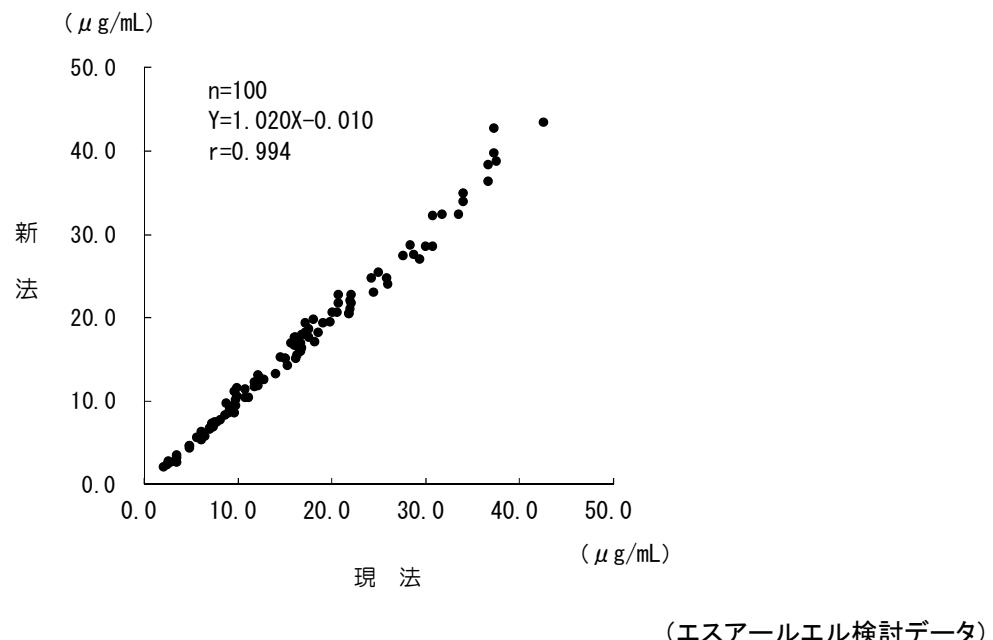
■検査方法参考文献

木村 真波 他: 医療と検査機器・試薬 33(4):525~533, 2010.

ゾニサミド

所要日数が短縮可能な自動化試薬に変更させていただきます。

■新旧二法の相関



■検査方法参考文献

安田 真依,他:医療と検査機器・試薬 38(2):205~210,2015.